

9.7(fri) エルデーディ弦楽四重奏団コンサート

開演/19:00 会場/弦楽亭 料金/3,000円

Program

モーツァルト:弦楽四重奏曲 第21番 ニ長調「プロシア王第1番」K575

第1楽章:Allegretto
第2楽章:Andante
第3楽章:Menuetto - Allegretto
第4楽章:Allegretto

晩年のモーツァルトが、より純化してコンパクトな形に到達した「プロシア王」弦楽四重奏曲。プロシア王がチェロをたしなんでいたこともあり、チェロパートに大きな比重がかかっている。第1番はニ長調という明るい調子で書かれていて、第1楽章と終楽章の動機も関連性があり、曲全体の統一がうまく図られている。3曲の「プロシア王」弦楽四重奏曲の中で一番簡潔なスタイルを持つ。

バルトーク:弦楽四重奏曲 第6番

第1楽章:Mesto (悲しげに) - Più mosso, pesante - Vivace
第2楽章:Mesto - Marcia
第3楽章:Mesto - Burletta : Moderato
第4楽章:Mesto

アメリカ亡命前、第2次世界大戦勃発後に完成された、当時の世相を反映した深い悲しみが全体を支配するバルトーク最後の弦楽四重奏曲。第1楽章から第3楽章まで冒頭にMestoと題されたモチーフが、最初はヴィオラのみ、各楽章ごとに声部が増え、第4楽章に至っては単なるモチーフとしてではなく楽章全体を構成する。

～休憩～

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調 Op.59-2「ラズモフスキー第2番」

第1楽章:Allegro
第2楽章:Molto Adagio - Si tratta questo pezzo con molto di sentimento
第3楽章:Allegretto
第4楽章:Finale - Presto

ロシアのラズモフスキー伯爵の依頼によって書かれた3曲の弦楽四重奏曲を「ラズモフスキー弦楽四重奏曲」と呼ぶ。ベートーヴェン中期の最も充実した時期に書かれただけに、それぞれの内容には違いがあるものの、前作の作品18と比べて格段に規模も作風もスケールアップしている。第2番は唯一短調で書かれた作品だが、6/8拍子で書かれた第1楽章(最初の楽章にこの拍子はあまり使われない)、内省的な第2楽章、勇猛果敢な第4楽章と聴きどころ満載。また、ロシアの伯爵からの依頼にこたえて第3楽章の中間部にロシア民謡の旋律が使われている。(蒲生克郷)

Profile



蒲生克郷【ヴァイオリン】

1976～78年渡独。ヒルテスハイム市立歌劇場管弦楽団奏者、ヒルテスハイム室内管弦楽団コンサートマスター、またヴェルツブルク音楽大学に学ぶ。1980年より2014年3月まで東京藝術大学音楽学部管弦楽研究部非常勤講師、その間長年にわたり同部(藝大フィルハーモニア)コンサートマスターを務めた。



桐山建志【ヴィオラ】

東京藝術大学を経て同大学院修了、フランクフルト音楽大学卒業。1998年第12回古楽コンクール(山梨)第1位、1999年ブルージュ国際古楽コンクール第1位。多数のCDを主にコジマ録音よりリリース。現在愛知県立芸術大学教授、フェリス女学院大学講師。チェンバロの大塚直哉と共にデュオ・ユニット「大江戸バロック」を主宰。



花崎淳生【ヴァイオリン】

東京藝術大学を経て大学院修了。1986年から87年にかけて、ドイツ、カールスルーエに留学。「古典四重奏団」として、97年村松賞、04年文化庁芸術大賞、07年同優秀賞、13年東燃ゼネラル音楽賞奨励賞、16年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞。「古典四重奏団」メンバー。CD多数リリース。



花崎 薫【チェロ】

東京藝術大学在学中、ドイツ学術交流会給費留学生として、ベルリン芸術大学に留学。長年にわたり新日本フィルハーモニー交響楽団首席奏者を務める。2011年東京シンフォニエッタのメンバーとしてサントリー芸術財団、佐治敬三賞を受賞。愛知県立芸術大学音楽学部教授、東京藝術大学、武蔵野音楽大学非常勤講師。



エルデーディ弦楽四重奏団

1989年東京藝術大学出身者により結成。1990年～92年ロンドン、アマテウス弦楽四重奏団メンバーによるサマーコースに参加研鑽を積む。1991年松尾学術振興財団より特別奨励賞受賞。1992年11月より翌年1月にかけて、日本室内楽振興財団の助成を受け、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン連続演奏会を開催。1995年より開始した「ベートーヴェン後期とバルトーク」を完結する。「クワルテット紀行シリーズ」ではイタリア、北欧、チェコ、パリ、ロシア、イギリス、ウィーン、ハンガリーを取り上げる。1995年及び1997年春、秩父にてアマテウス四重奏団のメンバーによるコースに参加。1999年、結成10周年、ハイドンのエルデーディ弦楽四重奏曲《作品76》全6曲演奏会を開催。2000年夏、芦ノ湖音楽祭、清里音楽祭に出演。2001、2003年、陝州(ドイツ、フランス)公演。2005年より第一生命ホールSQW シリーズにおいて、ハイドン最晩年の作品9曲、メンデルスゾーン主要6曲、シューマン全3曲、ツェムリンスキーとベルクの作品を、2009年にはハイドンの《作品74》全3曲、《作品9-5、9-6》、「十字架上の七つの言葉」《作品51》、メンデルスゾーン《作品13、44-2、80》の演奏会を開催。2015年よりベートーヴェンの後期シリーズ開始。ハイドン《作品76》全6曲、メンデルスゾーンとシューマン、プッチーニ、ピツェッティ、ロータの作品によるCD「菊」、ベートーヴェン後期弦楽四重奏曲集一(第13番)をリリース。